

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	オーリーブ		
○保護者評価実施期間	2025年 9月 22日		～ 2025年 10月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 9月 22日		～ 2025年 10月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	視覚支援や構造化など、個々に応じたコミュニケーション支援を行い、発信しやすい環境を整えている。	発語のない子も意思確認・意思表示ができるよう、カードやクレーンでのやりとりをしている。 外出等、イレギュラーな活動時は事前にスケジュールを作成し見通しが持てるようにしている。	コミュニケーションブックの作成など、事業所での学習会として支援を広げていけたらと思っている。
2	保護者支援、情報提供	スタッフが当事者でもあるので、びあカウンセリングが可能となっている。進路や制度についての情報提供等心がけている。 他国籍の児童・保護者対応として、活動報告の翻訳や学校と連携しての日本語学習の支援を行っている。	保護者同士の交流やともに学ぶ学習会の場の提供など
3	さまざまな活動プログラムの提供	自立生活課題の取り組みとして、お手伝い活動、ペットボトルリサイクル活動、クッキングなどを実施。長時間活動の日には昼食クッキングを実施し、ギョーザ作り・ピザ作り等体験するとともに、ご家庭の負担軽減にもつながっている。	コロナ禍以降、控えていた外出の取り組みも再開し、プラネタリウムや体育館の開放、作業所のイベントや外食の機会を増やして行く。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会やきょうだい児支援の学習会や交流会の開催	就労している保護者が多く、モニタリングの日程調整も必要で、学習会や交流の場を設定するのが困難となっている。	保護者からの問い合わせや質問については、連絡帳を通じてや面談時にていねいに伝えるようにしているが、保護者間の交流で得られるものも大きいので、機会を持てるようにしていきたい。引き続き、制度や学習会の案内等情報提供をしていきます。
2	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアル等の保護者への周知・説明。訓練の実施。	事業所で策定している事故防止や緊急時対応等のマニュアルを保護者に開示したりする機会を設けていなかった。	配布物での周知や、HPから閲覧できるようにするなど、工夫していきたい。
3	地域の子どもたちとの交流	地域との交流は、公園遊び等で積極的な交流の機会を持っていない。 毎月1回、金岡公園体育館の障害児向け開放には参加し、交流の機会を持つようにしている。	ザビエル公園でのイベントに参加するなど、近隣との交流の機会を持てるようにしていきたい。 子ども同士の交流が困難な場合もあるので、障がい者作業所のイベントへの参加等は続けていきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 オリーブ

公表日 2025年10月31日

利用児童数 2025年10月31日 18名

回収数 14名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			2	スタッフは何名	保育士(2名)・児童指導員(5名)を配置。あい・さかいサポートリーダー・強度行動障害支援者実践研修修了者各1名を配置。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13			1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13			1		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13	1				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7		1	6		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	14					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8		1	5	参加したことない	家族支援プログラムや研修会の実施等できていなかったため、情報提供をこまめにしていけたらと思っています。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13			1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		3	1	10	参加したことがない	就労されている方が多く、これまで保護者会等の開催ができていなかったため、今後少人数でも保護者交流の機会を設けていきたいです。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8			6	4月の面談以来ですので説明していただいた内容を忘れてしまっていると思います。4月がよるしくお願いします。	緊急時対応等は保護者の方への周知が不可欠なもので、配布物やHPから閲覧できるよう工夫していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	1		9	参加したことがない	保護者の方交えての訓練等はできておらず、緊急時の引き渡しの訓練等、今後実施していけたらと思っている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	1		5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	14				息子が安心して通所しています。	なによりありがたい評価をいただき、今後の励みにしていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	14				いつもありがとうございます。毎回楽しみに通所しています。	なによりありがたい評価をいただき、今後の励みにしていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14				親と同じ目線で考え、声かけして下さるスタッフの方に感謝しています。帰りの送迎の時、インターフォンではなく到着前の電話連絡制にしていだけるととても助かります。	送りの際、事前に電話連絡させていただくようにしました。保護者の方がマンション下で迎えていただき、スムーズにお送りできるようになりました。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	オリーブ				公表日	2025年 10月 31日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		生活訓練室・遊びの部屋とは別に、宿題や自立課題のための学習室は集中できるように壁に向かって机を配置している。	限られた空間なので、事務所併設の相談スペースも、課題やPC使用、カームダウンの場として使うこともある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		管理者兼児童発達支援管理責任者(1名)・保育士(2名)・児童指導員(5名)を配置。あい・さかいサポートリーダー・強度行動障害支援者実践研修修了者各1名を配置。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		顔写真やイラスト・サインを使った掲示をし、スケジュールは個々の特性に応じたものを用意している。	室内は段差等ありバリアフリーとはなっていないが安全にすごせるように配慮している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		宿題や課題に取り組む学習室、TVやキーボードおもちゃ等遊びの場…と目的に応じて使い分けをしている。	下校時間が異なるため、すでに遊んでいる子がいる中で、宿題をすることになっているため、集中できない場合もある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		事務所・相談スペースもPC使用やカームダウンの場として使用している。	独立した更衣室がないので、着替えの時は課題の部屋等にカーテンをつけて仕切っている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		スタッフ会議の中でPDCAサイクルを確認し、意見を出し合えるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		年1回、保護者向け評価表によるアンケートを実施。8割近い方から回答があり、満足度・支援の提供について高評価を得ている。	地域交流や保護者会等、実施できていなかったり、ホームページでの発信の頻度が十分でなかったりしている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		1～2ヶ月に1回、スタッフ会議を開催。事前に「気になること」「困っていること」を書き出すようにし共有化している。	会議に出席できないスタッフがいる場合もあるので、会議録を作成し共有するようにしている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	わからない 7		第三者委員会を設定していないため、外部評価の機会を作れていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		障がい特性や虐待防止法等基本的な姿勢や考え方を学んでから支援に入るようにしている。オンライン研修等は事業所内研修として活用している。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	わからない 3	スタッフ間で意見交換をしながら、個々の特性に応じた支援プログラムを作成し、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		契約時に成育歴等のていねいな聞き取りを実施し、事業所で用意したサポートブックへの記入をお願いし、支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		個別の支援計画については、スタッフ会議での話し合いをもとに作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		サポートブックや個別の支援計画は、職員が常時閲覧できるようにし、共有している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		支援学校の個別の支援計画を共有させていただいたり、発行迎え時の申し送り・保護者からの連絡帳による情報提供を活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		2024年度より放課後等デイサービス計画の様式を変更し5領域を明示した支援内容を提供できるようにしています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		制作物や外出計画、長期休暇中のクッキングや外出計画など、職員間で意見を出し合って計画している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		利用者が個々にスケジュールを作成し、その日の活動を決めている。個別の課題は保護者・学校との連携により設定している。	百舌鳥支援学校の見学会に参加し子どもたちの取り組んでいる課題等を参考にしている。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		平日は学校の宿題やプリント類の取り組みのサポートが中心となるが集団活動や季節の取り組みを実施している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		日々の活動前に情報確認を実施。(グループライン等活用) 注意事項や役割分担など確認している。	学校迎への送迎からのスタートとなるが多く、当日全員が集まっての打ち合わせはできていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	5	活動の中で気になったことや、送迎時のごと等は、グループラインで共有するようにしている。	支援終了後は送迎に出るスタッフが多数を占めるため、当日に対面での振り返りはできていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		活動日には、個別に活動報告書(複写)を作成し、その日の様子を保護者に伝え、事業所では個人名ファイルに綴じて保管している。	個々の活動報告書のほかに、業務日誌に気づいたこと等を記録し共有できるようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		6ヶ月に1回実施。活動の様子や支援の状況を確認し、達成度を振り返り、次の目標設定につないでいきます。	面談での聞き取りを基本としているが、就労等により面談が困難な場合は電話でとることもある。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	わからない 2	自立活動として、お手伝い学習やクッキング、創作活動として毎月の製作、近隣との挨拶など交流や外出等余暇活動を提供している。	地域との交流は、公園遊び等でのふれあいくらいなので、今後は積極的な交流の機会を持ちたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		利用者自身が個々にスケジュールを作成し、その日の活動を決めている。表出が苦手な子にはカードで選択できるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		ケース会議参加時には、子どもの様子や変化をまとめた書面を作成し、情報提供している。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		日々の学校迎の際、情報共有をしている。基幹相談支援センターや地域福祉課とも連携し、必要に応じて保護者支援も行っている。	不登校児童の対応として、学校・相談支援・訪問看護・他放デイ事業所と連携し、チームで支援にあたっている。
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	9		下校時間が不規則となる地域中学校等とは直接連絡を取り合うなどしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	わからない 7	相談支援からのモニタリング時に、就学前の様子を聞き取りをさせていただきようとしている。	就学前の様子については、保育所等から直接うかがうことはなく、保護者からの聞き取りを通じて情報を得るにとどまっている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9		作業所も交えての移行のケース会議が開催されない場合は、活動のようすや本人の障害特性、配慮事項…等文書で情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	わからない 7		地域の児童発達支援センターからスーパーバイズや助言を受けられることをわかっておらず、連携できていなかった。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9		長時間活動の日など、近隣の公園遊びに出かけ、いっしょに遊んだりすることがある。	積極的に交流の機会を設定して活動を共にすることはできていない
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	わからない 6	さかい放課後連絡会には参加しているが、自立支援協議会の方には参加できていない。情報も得られていない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		保護者との双方向の連絡は連絡帳の他、ラインでのやり取りで情報共有している。記録を残し確認できるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	わからない 6	家族支援プログラムの提供はできていない。外部研修の情報提供等は行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に、運営規定、重要事項説明書、利用者負担、サービスの内容等について丁寧に説明している。	運営規定や重要事項説明書の変更時には、書面にて通知している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		ていねいな聞き取りをし、本人・保護者の意向を確認し、放課後等デイサービス提供を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		モニタリング等の面談時に確認いただき、支援内容の説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		連絡帳やラインを通じて保護者からの相談を受けることが多く、ていねいな返事を心がけている。	事業所として情報不足の件に関しては、情報収集や関係機関の助言を得るようにしている。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	わからない 6	就労されている保護者の方がほとんどで、なかなか保護者会等が開催できていません。制度やイベント・研修会等の情報発信を行っています。	障害児者緊急時かけつけ事業など、新たな制度の情報などについても発信していくようにする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		利用児の様子や保護者からの意見については、すぐにスタッフ間で共有し方向性を確認して対応できるようにしています	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		翌月の予定を載せた「オーブらんど」を発行。外出予定・クッキングのメニュー等お知らせし準備物等の呼びかけをしています。	ホームページでの発信が十分できておらず、保護者から希望する声も届いている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		契約時に「個人情報使用同意書」を作成するとともに、職員の雇用契約書にも守秘義務があることを厳しく伝えている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		発語のない子や発音の弱い子にはカードスケジュールや要求ボードなど、個々に応じた支援グッズを用意している。	他国籍の保護者には、伝達手段として活動報告等を英語翻訳している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	6	地域の就労移行事業所の方とつながりを持ち、卒業後の選択肢を学ばせてもらっている。	近隣のイベントには参加しているが、地域住民の方の招待等はできていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	わからない 1	契約時に緊急時フローチャート(病児・病児/地震・台風)を配布。また台風等の緊急対応は、改めてお知らせやライン等で対応している。	保護者への周知については、マニュアルを作成しての対応とは伝えているが、現状では中身まではお伝えできていない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	わからない 1	業務継続計画を策定し、形式的なものとならないよう、実務に即して活用できるように見直しも図っていく。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		服薬や発作のある方についてはいないに聞き取りをして、発作時の対応を確認し、事業所でも発作記録を残すようにしている。	インフルエンザ等予防接種の時期には早めの予約を…等呼びかけを行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	わからない 1	直接、医師の指示書をいただいていることはないが、保護者からの聞き取りで、排除する食品の提示を受けている。	除去食については練習中のもの(卵・乳製品)もあるので、本人の言葉だけでなく連絡帳等での確認をしてから進めている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画を作成し、オンライン研修を共有するなどし、安心して活動できるように環境を整えている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	わからない 4	安全確保については、家族との連携をとれるようにしているが、安全計画に基づく取組内容の周知についてはできていない。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ヒヤリハットは回覧し、スタッフ会議等で具体的な再発防止策を話し合うようにしている。	我先に！と走り出す子などいるため、情報共有し危険回避できるようにしている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		大阪府の権利擁護虐待防止研修を受講するなどし、事業所内研修に活用している。	スタッフ会議の場等でも人権意識については触れるなど、日々の支援の中でも土壌づくりを心掛けている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	わからない 1	現在は対象者なし。重要事項説明書等の確認時にやむを得ない状況時に限り、身体拘束を行うこともあることを伝えている。	パニック時の対応として、安全確保のため距離を置く、カームダウンのため刺激を排除する等、必要な配慮を共有しています。	